



「模擬原子爆弾って何？」原爆について母が話をしてくれたときに、まず出てきた疑問でした。原爆は長崎と広島に投下されたものだという知識しか知らなかったからです。新潟の、しかも自分の住んでいたことのある長岡市で原爆投下練習が行われていたという事実を知り、大変驚きました。

長岡空襲12日前の1945年7月20日、アメリカ陸軍により模擬原子爆弾「パンプキン」が投下されました。それによって、4名の尊い命が奪われ5名の重軽傷者ができました。長岡市にお住まいの横山藤四郎さんはこの模擬原子爆弾によって、当時19歳と13歳だった兄弟を亡くしました。模擬原子爆弾が落下した衝撃で集落の戸や窓は吹き飛ばされ、烟で芋掘りをしていた兄弟は即死だったそうです。横山さんはこのことについて「弟は遺体さえ見つからなかった。戦争は本当に惨めた。ああいう目に遭った人にしか分からない。と語っています。当時、原爆の投下地は「京都」「広島」「横浜」「小倉」「新潟」の五つが候補でした。もしかしたら原爆は新潟に落とされたいたかもしれない。戦時中に安全な場所などなく、戦争を批判することも許されない、当時の方々の気持ちを想像してとても胸が苦しくなりました。このことをきっかけに私は原爆について調べることにしました。

広島での原爆によって亡くなった方は約

14万人。一瞬にしてこれほど多くの人たちの命と未来への希望を奪い去ってしまった原爆に恐怖を感じました。被爆者の方々には完治という言葉がありません。終戦から77年経ったいまでも苦しんでいる人たちが大勢います。そんな人達のために私達にできることは、戦争の悲惨さ、平和の尊さを忘れないことだと思います。当時の人々の悲しみや心の痛みを同じように感じることはできません。けれどこれから先、戦争を語れる人が減り、戦争を知らない人達が増えていく時代で、戦争の恐ろしさを伝えていくことこそが平和な時代に生まれた私達の役目だと思います。

今、日本では戦争は起こっていませんが、国と国の理想の違いや宗教の違いのために争いが発展し世界各地では紛争が起こっています。現地にいる人達は安心して眠ることもできず、満足のいく食事も取れていない日がほとんどです。そして最近では2022年2月24日、ロシアがウクライナに本格的な軍事侵攻を始めたことから戦争が起きています。「1日に兵士100人が死亡」「53の文化遺産が崩壊」など、テレビを見るたびに悲しい見出しが目に見え込んできます。今現在も戦争が起こっていて沢山の人が苦しんでいるのに、何もできない自分がとても悔しいです。そう思った私は、平和な社会を作るために私自身にできることを考えてみました。

一つ目は募金活動に参加することです。私達の学校では、少しでも戦争で苦しんでいる人たちが救われるようにと願って募金活動を行いました。募金は緊急支援物資になり、戦争で苦しむ人々に届けられる一方で、戦争について考える大事な機会にもなります。寄付は誰かに自分の思いを託すことです。自分の思いが少しでも誰かを元気づける力になっていたら嬉しいです。

二つ目は戦争について知ることです。今口

シアやウクライナがどういう状況なのかを一方的な情報ではなく色々な角度から考える事で、直接戦争を止めることはできなくても、いざというときに正しい行動をとることができます。ロシアとウクライナに限らず世界の現状を知ることが、平和への一步となると思います。

三つ目は、小さな争いをなくすことです。私は、今までに意見の違いによって言い争いになってしまっているのがあります。そんなときに大切にしているのは、自分にとっての正義を人に押し付けられないことです。人は誰しも大切な人やもの、自分にとっての誇りを守ろうとします。しかし、それを相手にも押し付けてしまつては、争いが生まれてしまいます。なので、争いを避けるには相手の立場や思いを尊重する気持ちを持つことが大切です。そのために私は、「ごめんなさい」や「ありがとう」などの人と向き合う言葉を大切にしています。「ありがとう」はすべての人を幸せにする魔法の言葉であり、「ごめんなさい」はその言葉に触れたとき、人を許して優しくなれる言葉だと思えます。大人になるに連れてそういった言葉を素直に言えない時があると思えます。それでも私はこの言葉を日頃から、心を込めて伝えるようにしています。私は戦争のない国に生まれ、当たり前のように学校に通い、美味しいご飯をお腹いっぱい食べて、ふかふかのベッドで眠ることができています。今、私達が平和に幸せに生活できていること、当たり前になりすぎて感謝できていませんでした。日頃の小さな幸せに感謝し、戦争の出来事を忘れないこと。それが私のできる平和への一步です。

(原文のまま掲載しています。)